

令和7年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- ・知性を磨き、社会の進展に対応できる力を育てる。
- ・自他尊重の精神と情操豊かな心を育てる。
- ・健全な心身と未来を拓くたくましい力を育てる。

2 学校の特色

- ・5学科各学年5クラスの総合制高校として魅力ある教育活動が展開できるよう、各学科の特性や生徒の実態等を踏まえ、一人ひとりの自己実現をめざした教育活動を推進しています。
- ・氷見市で唯一の高校として地域との結びつきを大切にしています。生徒の気質は明るく素直で、学習や部活動、生徒会活動をはじめ学校生活全般にわたって、ひたむきに一所懸命に取り組む校風があります。
- ・普通科では、ほとんどの生徒が国公立大学を主とした四年制大学等、進学を目指しており、2年次よりⅠ類型、Ⅱ類型に分かれ、各々において理系、文系の類型別授業を編成しています。生徒個々の興味・関心や進路希望等に応じた学習活動の充実に取り組んでいます。
- ・専門学科は、農業科学科・海洋科学科、ビジネス科、生活福祉科の3学級で構成しており、体験的学習や地域の事業者と連携して社会課題の解決を図るなど、実社会に役立つ多様な取り組みを通して、学びを深めています。
- ・令和2年度より地域との協働による探究学習に取り組んでいます。氷見市より、地域協働学習コーディネーターを派遣していただき、校外での学びの場や機会、人とのつながりの創造に取り組み、価値あるリソースに恵まれる中、生徒の学びが広がっています。1年次「未来講座 HIMI 学Ⅰ」では、地域を中心とするフィールドワーク等をとおして知識や体験を増やし、物事を探究する姿勢や学ぶ力を育成する課題解決型の探究学習を実践しています。2学年普通科では、「未来講座 HIMI 学Ⅱ」において、1年次の探究活動で立てた仮説に対して実働的に取り組み、実践、検証、実践の探究活動を行い、その成果をまとめて発信する取り組みを行っています。この取り組みに地元氷見市より様々な支援をいただくなど、地域と協働しての取り組みとなっています。
- ・進路実現をサポートする「キャリア教育」を推進し、各学科の枠を越えて将来への広い視野を持ち科目選択ができる「総合選択制」を導入することで、学科間連携など、特色ある教育活動を推進しています。
- ・『文武両道』の校風を大切にし、学習と部活動の両立に努めています。部活動では幾多の全国制覇の経験がある男子ハンドボール部をはじめとして、野球部、自転車競技部、女子ハンドボール部やその他多くの運動部、文化部が輝かしい成果を上げています。一方、生徒の学習意欲や進路意識の多様化が進む中、学校全体として主体的で協働的な学習指導及び進路指導体制を整え、生徒の学習意欲の向上を図ることが求められています。また、生活面においては、生徒の社会性や規範意識を醸成し、家庭や地域との連携に根ざした信頼される学校づくりを進める必要があります。

3 学校の現状と課題

本校は5学科を有する総合制高校です。各学科の生徒は経験、技能、専門性、意欲等において、多様な価値観を有しており、協働した学びの中で互いを高め合う可能性に満ちています。学校全体としても、多くの学科を有することを強みにして、新たな価値を創造する可能性があり、それらの可能性を最大限に活かすため、スクールポリシーで「育成を目指す資質・能力」を以下のように定めています。

- (1) 協働する力（多様な考え方を受け入れ、人々と協働し、目標を達成する力）
- (2) 思考力・判断力（論理的思考力や批判的思考力を身につけ、情報を適切に判断できる力）
- (3) 問題解決能力（課題を発見し、原因の背景を分析した上、既成概念にとらわれずに解決策を導き出す力）
- (4) 自律的な学びの力（学びの意義を理解し、生涯にわたって学び続ける力）

また、学校課題として以下の3点を挙げ、重点目標を設定し、学校経営に取り組めます。

- ① 個に応じた学習指導、進路指導のあり方
- ② 学科の専門性の深化、学科間の横断的な学び、生徒の連携・協力の機会の創造
- ③ 社会に貢献し、問題解決能力の高い人物の育成

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目標	① 個に応じた学習指導を目標とし、生徒の能力や意欲・理解度に応じた主体的な学びを創造する工夫を施す。 ② I C T機器を有効活用する姿勢を育むとともに、教職員が I C T機器の有効性を一層学び、より活用範囲を広げつつ主体的な学びの充実を図る。 ③ 地域と学校が協働した学びをとおして培った力を、教科学習への学びのモチベーションへとつなげることで生涯にわたって学び続ける人材を育成する。 ④ 保護者や地域の方々に、生徒の探究する姿を知ってもらうことで、学びの場を広げ、生徒自身の社会性や有用感へとつなげ、地域創生に主体的に携わる人材を育成する。
		計画	① 教育アプリケーションやデジタル学習コンテンツの価値を最大限に活用し、生徒、教職員が一体となって学習意欲の向上に繋がるよう努める。 ② <u>教職員が I C T機器を使用することで、生徒の理解が高まるだけでなく、創造的な学びが展開されるよう努め、互見授業を通して研鑽し合うことで授業改善を進める。</u> ③ <u>課題発見、課題に向かう探究的な地域協働学習の学びのプロセスで、教科学習への学びのモチベーションを高めるよう努める。</u> ④ 地域協働学習を通して「地域と一体となった学校づくり」を推進し地域との協働体制の拡充に努める。生徒が地域をフィールドとして学び、地域の方々と共に課題発見、解決に向けて努力することで地域づくりに関わる。また、この取り組みを通して、地域人材を育成するカリキュラム開発と実践を行う。「高等学校 D X 加速化推進事業」でデジタルの価値を理解し、社会への啓発にも努める。
2	学校生活	目標	① 生徒が主体となった校則の見直し等の取り組みにより、「誇りに思える氷見高校」を生徒、教職員が一体となって創造する。 ② いじめ撲滅等、「安心して過ごせる氷見高校」を生徒、教職員が一体となって創造する。 ③ 生徒が主体的に健康課題を見つけ、解決に向かう力を育む。 ④ 人命尊重と災害防止の指導の徹底を図り、防災について万全の体制を整える。
		計画	① <u>「氷高さわやかデイ」を通した挨拶の励行や、基本的な生活習慣である時間・交通・服装の社会的マナー等、委員会活動を通して、啓発・実践することで、自己指導能力の向上を図る。</u> ② <u>「安心して過ごせる氷見高校」をキーワードとして、人権教育を基本とした活動を展開する。いじめ撲滅や人間関係に関する悩み、問題行動を早期に把握し、各学年や外部機関とも連携し、生徒との信頼関係に基づく対応を推進する。</u> ③ <u>食事の見直しなど、生徒自らが健康課題を発見、解決できる意識を高めることができるよう、生徒保健委員会や P T A 保健体育委員会と連携して取り組む。</u> ④ 生徒の心身不調の原因を早期に発見し、スクールカウンセラーや巡回指導員等との相談および各学年や保護者等とも適切に連携を図り、対応する。

3	進路支援	目標	① 進路実現の手立てについて、生徒の理解と主体的な行動を促進し、生徒自身が主体的に自らの将来に希望を持てる企画に取り組む。 ② 進路関連行事や個人面接等の充実と進路意識の高揚に向けての取組を充実させる。 ③ 自己の生き方を考え、職業観を踏まえた進路設計を立てさせる。
		計画	① <u>生徒自身が進路について継続的に考え、将来や職業について周囲と意見を交わし様々な価値に触れる場や機会を設定し、高い志を持って主体的に進路実現に挑戦する生徒を支援する体制をつくる。</u> ② <u>学年間の連携を密にし、3年間を見通した継続的・計画的な進路指導体制の確立を図る。また個人面接や進路に関するHRを充実させ、生徒の進路意識が明確になるよう適切な進路指導を行う。</u> ③ 就職指導については、2学年の専門学科が一斉に行うインターンシップに取り組むとともに、3学年については、求人票に基づく企業研究や会社訪問等を通して職業観や勤労意欲を持たせる。
4	特別活動	目標	① 学校行事、部活動等への積極的な参加を通して、自主性・協調性・チャレンジ精神・創造力を育てる。 ② 諸行事の企画や運営を通して集団の一員としての自覚を高め、たくましく生きる力と好ましい人間関係を築くことのできる生徒を育てる。 ③ ボランティア活動に参加することで、自己有用感を持ち社会に貢献しようとする態度を育てる。
		計画	① <u>生徒が積極的に学校行事に参加できるよう、生徒会が中心となって生徒と教職員の意見や要望を集約し、行事の内容を一層充実させる。</u> ② <u>限られた時間を有効に活用し、休養日を含めたメリハリのある部活動の取り組みを目指しながら、人間性の向上を図るよう意識づける。</u> ③ <u>ボランティア推進委員会を中心に、各専門学科クラブ、部活動と連携して、生徒の主体性に基づいて、身近に今できるボランティア活動を推進する。</u>
5	その他 (情報発信及び家庭との連携)	目標	① 本校の様々な教育活動に対して保護者や地域の理解を広げられるように努め、連携して生徒の育成を図る。 ② 情報共有手段の積極的な活用により、適切な情報発信を行うことで、保護者や地域の人々に氷見高校の活動を知ってもらい、生徒の活動の場をさらに創造する。
		計画	① <u>地域と連携した活動への参加を積極的に進める一方、PTA参加行事の内容をより保護者の関心が高いものとなるようアンケートを実施するなど、より多くの方々の学校行事等への参加を目指す。</u> ② <u>ホームページの内容の改善や新たに公式SNS等を設けることで、本校の取り組みの発信力を高め、多くの方に理解いただけるよう工夫を施す。また、「安心・安全メール」によりリアルタイムに情報発信をする。</u>

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和7年度 氷見高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動（生徒の主体的な学び）	
重点課題	ICT活用と地域協働学習による主体的な学びの深化	
現 状	(1) ICT活用の推進 Society 5.0の時代に要請される資質・能力育成のため、ICT環境整備が進捗し、教員へは一人一台のタブレットが貸与され、本年度より1年生は一人一台タブレットを購入する運びとなった。ICT活用は、生徒の「興味・関心を高める」「課題を明確に捉える」「図や写真による理解促進」「知識の確実な定着」など、多岐にわたるメリットをもたらす。この背景から現代の教育においては、あらゆる場面でのICTの効果的な活用が強く求められている。しかしながら、授業におけるICT活用の現状を見ると、指導用PCからプロジェクタへの画面拡大提示が主流であり、生徒のタブレット活用は一部の授業に限られている。今後の課題として、ICTを用いた協働的な学習や家庭学習における積極的な活用を一層推進するために、教員側のICTスキル向上を図り、ICTを積極的に取り入れた授業への改善を進めていく必要がある。 (2) 地域協働学習について 本校では、昨年度より探究学習の深化を図ることを目的として、カリキュラムの見直しを行い、2年間の継続研究を行うこととした。これにより全てのグループが課題解決等に向け、検証、分析、再検証を行うだけの時間を確保した。さらに、氷見市より課題解決実行のための経済的な支援もあり、自分たちの解決案を行動に移すことができる環境が整っている。それによって、知識の詰め込みや暗記型学習から脱却し、生徒が本来持つ資質・能力の伸長が期待される。このように、地域と学校の連携がさらに深化し、「本格的な学びの場」で学ぶことが、さらなる学校の魅力化につながると考える。さらに、この特色ある学びをより外部の人に理解していただくために、HPの充実や発表会への招待を積極的に実施し、HIMI学に触れる人の数を増やすことを目指す。	
達成目標	(1) ① ICTを学習の基盤として日常的に活用し、主体的に学びに向かう姿勢を育成した生徒の割合・・・80% ② ICTを効果的に活用した授業実践や教材研究を継続的に推進した教員の割合・・・80%	(2) ① 地域協働学習により、教科学習の学びのモチベーションが高まったという生徒の割合・・・80% ② 地域協働学習に取り組んだことで、自らの課題解決能力の向上に繋がったと感じた生徒の割合・・・80% ③ HPにおいて探究活動に関する記事の掲載・・・年間20件以上 ④ 発表会などに外部の方々に参加する人数・・・20人以上（伴走者を除く）
方 策	(1) ・教育クラウドサービスを活用した課題提示と個別最適化されたデジタル副教材の提供を通じて、生徒がICTを日常的に使いこなし、授業や家庭学習においても主体的に取り組む習慣を確立する。 ・年2回実施される互研授業週間におけるICT活用授業の積極的な参観を通して、全教員が一体となって授業改善や教材研究に取り組む。加えて、教員のスキル向上研修を実施し、授業でのICT活用頻度を向上させる。 ・DX加速化推進事業の活用により、専門学科間の連携を図り、無人販売所の開店に向けた取り組みを行うことで、デジタル活用能力と協働する力を育成する。 (2) ・伴走者の配置（「未来講座HIMI学Ⅰ」「未来講座HIMI学Ⅱ」） 各グループに課題の内容に応じた外部人材を伴走者として配置する。外部人材延べ20名程度、各年間4回程度の授業参加を予定。 ・地域の探究実践者と語る（「未来講座HIMI学Ⅰ」） 地域の課題解決に取り組む外部人材を一斉に本校に集め、生徒は興味のある分野についての話を聞き、テーマ設定のヒントとする。今年度は20名程度を招致。 ・校内発表会の開催（「未来講座HIMI学Ⅰ」「未来講座HIMI学Ⅱ」） ポスターセッション形式や発表形式で実施する。地域の方など外部の方々にも参加していただく。その際、氷見市内外の小中学校に連絡を行い、教員や児童生徒が見学できるような運用を行う。また、「ひみ教育魅力化協議会」に参加している方々への周知も行う。よって、本校の魅力を地域の方に周知できることが今年度の目標である。	

令和7年度 氷見高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活（心身ともに健康で充実した高校生活）		
重点課題	「誇りに思える氷見高校」、いじめ撲滅等「安心して過ごせる氷見高校」の構築に向けた、自己指導能力の向上と人権及び健康を大切にする意識の育成		
現 状	・さわやかな挨拶を交し合える学校を目指し、さわやかデイを通した「あいさつ運動」を行うことで、日々の学校生活の中でも、自発的に挨拶を行う生徒が多数見られる。しかし、制服の着こなしや、校内における携帯電話の取り扱いに関して、規範意識の低い生徒も散見される。そこで、生徒会を中心とした生徒が主体となった校則の見直しを進めることで、生徒自身が「誇りに思える氷見高校」を創造し、その過程において自己指導能力を高め、自己有用感を感じられる学校生活を送ることができるようにする。 ・人間関係における不安や悩みを常に注視し、いじめ撲滅等「安心して過ごせる氷見高校」の創造を目指している。生徒・職員が一体となってより良い学校生活を過ごすことができるように、人権教育を基本とした視点から、良好な人間関係の構築に向けて働きかけていく必要がある。 ・健康診断結果による治療よりも部活動を優先してしまったり受検時期に治療のタイミングを逃してしまったりするなど、健康管理が疎かになる傾向がある。そのため、自立的な健康管理の意識付けを行う必要があり、特に、歯科検診では、本人が不調を感じていない場合に受診せずに済ませてしまい、治療率が向上しない現状がある。		
達成目標	① 生徒主体の取り組みによる挨拶・服装・携帯電話の取り扱い等の規範意識の向上	② いじめ撲滅等、「安心して過ごせる氷見高校」に関する意識の向上	③ 様々な健康課題、自然災害の危険性を発見、解決し、健康で安心安全な生活の実現をしようとする意識向上
	生徒意識調査における規範意識率 90%以上	生徒意識調査における学校生活を安心して送れたと感じる生徒の割合 98%以上	生徒意識調査による「健康課題の解決」と「自然災害の危険性発見と対策」に対する意識向上率 60%以上
方 策	① 本校独自の取り組みである年7回の「氷高さわやかデイ」の取り組みにおいて、挨拶の意義を事前指導し、その価値を意識しながら実施する。また、「誇りに思える氷見高校」をキーワードに、生徒会執行部や校風委員及び交通委員が中心となって、校則の見直しをはじめとした、生徒が主体となった取り組みにより、「挨拶の励行」「交通安全（自転車乗車マナー等）」「校内における携帯電話の取り扱いについて」など社会的マナーの意識と自己指導能力の向上を図る。 ② いじめ撲滅等「安心して過ごせる氷見高校」をキーワードとし、人権教育を基本とした活動を展開する。ホームルームや集会等で、「生命・人権の尊重」を訴えるとともに、学期ごとに「被害調査」によるアンケートを実施する。また、日々の生徒観察で人間関係に関する悩みや問題行動を早期に把握・察知し、得た情報をもとに、迅速かつ周到に対応する「いじめ対策委員会」の体制を構築し、実働する。 ③ 生徒保健委員会を通じて、生徒の「健康課題」を探り、食事等、個別の「健康課題」の解決に向けて、生徒が主体的に考えるような取り組みを工夫する。また、生徒保健委員会の活動とPTA保健体育委員会の活動が連携できるよう工夫を施す。生徒や保護者への情報発信を通じて、「健康課題」「自然災害対策」を解決する取り組みを促していく。		

令和7年度 氷見高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	進路支援（生徒の進路実現に向けた進路指導）	
重点課題	個々の生徒に応じた進路指導の取り組み	
現 状	・ 5学科を有する総合制の高校であり、同じ学科の中にも多様な学力や価値観を持つ生徒がいる。個々の生徒の適性と希望に応じた進路を実現するためには、生徒に自分自身を理解させた上、各自に合った進路学習を主体的に進める態度と方策を身につけさせる必要がある。 ・ 職業や上級学校についての理解や、入学試験・就職試験などに対する基本的な知識量が不足している。ICT機器の利用には慣れているので、自発的な進路研究等に活用させたい。 ・ 生徒自身が進路について継続的に考え、将来や職業について周囲と意見を交わし様々な価値に触れる場や機会を設定する必要がある。失敗を恐れず、高い志を持って主体的に進路実現に挑戦する生徒を育成する体制の強化が重要であり、面接やホームルームの活用が求められる。 ・ 3学年は、9月の就職試験から3月の国公立大学後期日程まで7か月にわたる多様な受験を指導・サポートする。5学科それぞれの特性と個々の生徒が培ってきた様々な経験と学力が、進路選択と受験に価値あるものとなるよう、学年、教科、各部署との連携をより密にする必要がある。 ・ 面談技術や受験情報の収集・提示方法、保護者との連携など、進路指導のノウハウを蓄積・向上させる体制の充実を図る必要がある。	
達成目標	① 進路意識の高揚および主体的に進路実現に挑戦する生徒の育成	② 進路関連行事や進路に関する情報提供、個人面接等の充実
	・ 進路関連行事を通して自らの進路決定に向かう意識が向上したと感じる生徒の割合 80%以上 ・ オープンキャンパス等への参加 1 学年＝30%以上、2 学年＝50%以上 3 学年＝75%以上 ・ ICT機器を活用し自発的に進路学習を進めようとした生徒の割合 80%以上	・ 進路統一ホームルームや大学等見学の満足度 70%以上 ・ デジタルソフト等を活用した進路学習に対する生徒の満足度 80%以上 ・ 個人面接等の満足度 80%以上
	③ 進路希望の実現 （第3学年 進学希望者）	④ 進路希望の実現 （第3学年 就職希望者）
	・ 出願校決定に向けての満足度 80%	・ 就職希望者の就職内定率 100%
方 策	・ 社会の一員としての自己を意識させる。他者と協働し多様な価値に触れる中で、自己選択、自己決定し、進路実現に向かうよう環境を整える。 ・ キャリア学習と進路実現の手立てを知る機会を設けるなど、各学年に応じた計画的な進路指導を行う。自らが目指す姿を描き、早期に自己の適性の理解及び将来設計を具体化させ、意欲的に学習ができるように指導する。 ・ 生徒がそれぞれの進路目標や学力に応じて、学習の計画や進路学習に取り組めるよう、学習支援ソフトの活用法を研究し、学年で共有する。 ・ 進路に関するホームルームを実施し、より効果的な系統指導プログラムを作成して、学校全体での計画的な指導体制の共有化を図る。（進路統一ホームルームを年3回程度実施） ・ 各学年と連携し、3年間を見通した進路指導を行う。 1 年次・・・「進路ガイダンス」「職業人から学ぶ」「学問・職業の研究」「文理選択」「卒業生と語る会」他 2 年次・・・「大学等見学」「修学旅行（班別研修）」「学部学科の研究」「オープンキャンパス」「インターンシップ」「卒業生と語る会」他 3 年次・・・「進路ガイダンス」「オープンキャンパス」「就職説明会」「企業見学」「進学検討会」他 ・ 個々の生徒の実態と進路に関する情報を教員間で共有する。 ・ 生徒や保護者向けの進路説明会を実施し、情報提供に努める。	

令和7年度 氷見高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動		
重点課題	学校行事・部活動・及び各主体による地域連携活動のさらなる活性化		
現 状	・学校行事は、全校生徒の参加意識や達成感、協働して生きる力をより高めていくために、生徒の意見を取り入れながら、生徒会執行部を中心に企画・運営を連携して実施する。 ・部活動は、全校生徒の約93%が加入しており、生徒の協調性やチャレンジ精神、創造力の向上に大いに寄与している。休養日週2日制の中、限られた時間を有効活用するために、明確な活動計画と集中した時間活用の工夫が求められる。 ・積極的にボランティア活動に参加しようとする生徒が年々増えている。地域と連携した美化活動の計画やボランティア推進委員会を中心に家庭クラブやJRC部等とも連携し、ボランティア活動に参加する生徒をさらに増やしていきたい。		
達成目標	① 各学校行事の内容の充実	② 部活動に参加することで協調性やチャレンジ精神、創造力を高める生徒の増加	③ ボランティア活動に参加することで社会に貢献しようとする態度を養う
	各行事に対する生徒の満足度 90%以上	3学年生徒の満足度 85%以上	美化活動、環境保全活動、募金活動等への全校生徒の意欲的参加
方 策	① 各行事の前に各種委員会の開催や事前アンケートを行い、全校生徒の参加意識を高め、生徒が主体的に協働して活動を進められるようにする。 また、行事後にアンケートを行うことで、生徒の達成感が高まるよう改善点を加えて次年度に活かすよう工夫する。 ② 部活動を通して、協調性やチャレンジ精神、創造力の向上を図ることの大切さを全校生徒に意識させつつ、目標を明確にし、計画的にメリハリのある取り組みを促す。生徒にアンケートで部活動に対する意識調査を行い、結果を各部顧問に知らせ、前向きになれるよう支援活動に活かす。 ③ ボランティア推進委員会を中心に、ボランティア活動のチラシの配付や放送などを通して、全校生徒に積極的な参加を呼びかけるとともに、ボランティア後の記録や感想を残すなど、振り返りの機会を設けることで、社会問題への関心を高め、社会に貢献しようとする態度を養う。		

令和7年度 氷見高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他（情報発信及び家庭との連携）	
重点課題	適切な情報発信及び保護者との情報共有の推進	
現 状	・家庭との連携を図るために、P T A活動への積極的な参加を呼びかけている。 ・P T A定期総会の実施…昨年、総会への参加保護者数は、21.7%（1年20.8%、2年26.6%、3年19.1%）とコロナ感染症が減少に移行しても以前の状態には戻っていない現状である。また、学年別P T A研修会においても、3年64.2%（普84.6%、専45.0%）、2年45.7%（普57.7%、専33.6%）、1年36.3%（普42.0%、専30.9%）と参加率は例年に比べて減少している傾向にある。 ・P T Aと生徒の懇談会の開催…令和元年度より開催を継続している。昨年度も懇談会を実施し、学校生活や部活動に必要な物品などの要望について話し合い、より充実した学校生活を送ることができるよう予算内で優先順位を協議し整備している。 ・P T A会報「ゆづるは」の発行…広報委員により年2回の発行を継続している。体育大会や氷高祭などの学校行事、授業の様子や部活動などの様子を紙面を通じて発信している。 ・学校と保護者との情報共有手段として、「氷高ほっとメール(安心安全メール)」への登録を保護者に呼びかけており、登録率は高い水準（98.3%）で安定している。 ・学校の広報活動としてホームページを活用している。学校の紹介や行事等を随時掲載しているが、更新の遅れや内容に不十分な箇所があり見直す必要がある。	
達成目標	① 総会への参加を促す企画の立案、実現。各行事の情報の発信。	② 学校行事のホームページへの投稿率 100%
	・定期総会、講演会への参加保護者数140人（25%）以上 ・各学年PTA研修会保護者参加率3年90%、2年、1年70%以上	・本校では各分掌や学科ごとにホームページ担当者を設けており、リアルタイムに情報を発信できる体制が整っている。 ・本校には学校のPRとなる学校行事や部活動が多くあるが、まだまだホームページに反映されているとは言えない。
方 策	・定期総会の講演内容に関して、保護者アンケートをFORMで調査し、保護者の希望に沿った内容の講演を実施することで定期総会に関心を持ってもらう。 ・各行事の案内や活動報告をHPやメールで発信し、興味・関心を高める。 ・定期総会後にFORMで保護者アンケートを実施し、集まった意見を次回の定期総会に活かして内容の改善をはかる。	・最新の記事を投稿する体制はできているが、ホームページ全体を統括して管理する分掌が明確でなかった。そこで教務部の「情報管理の総括」でホームページを統括し、すべての学校行事に対して、教務部情報担当から各分掌へ投稿を依頼する。 ・全職員にホームページを見てもらい意見を集約しやすい環境を作る。 ・内容によっては「氷高ほっとメール」を活用してホームページの閲覧を促す。